

**校長室から**平成30年11月30日

## 放課後学習の場

寒さが少しずつ厳しくなり、本格的な冬が迫ってきました。平成30年も残すところ一ヶ月となり、寂しさも感じますが、生徒達は、日々の学習や部活動、そして各種委員会活動やボランティア活動に取り組んでいます。

運動部の生徒達は大きな大会がほぼ終了していますが、日々、地道に練習に取り組んでいます。6月の中総体を良い状態で迎えるためには、大会が少ない時期やシーズンオフといわれる時期の課題意識を持った練習と準備が大切です。大きな大会が迫った時だけハードな練習をしても、結果に結びつけるのは難しいですよね。皆さんの部活動の様子を見てみると努力の様子がよく分かります。12月初旬に県大会を控えている部活動もあります。しっかり頑張ってほしいと思います。

文化部の生徒達は、これからコンクールを迎える部、地域で活躍する部、様々ですが、日頃の練習を大切にして、課題に向き合って、成果を上げてほしいと思います。

ところで、本校には、数年前からスタディ・サポートというシステムがあり、年間を通して放課後学習の場が設定されています。教科の課題・宿題をその日のうちに取り組んだり、授業で理解できなかった箇所を教え合ったり、先生方に質問して解決したりという場です。本校の教員だけではなく、仙台市内の大学生14名、そして地域のボランティアの方がサポートしてくれています。

特に考査前の部活動中止期間中や、今、実施している二者面談の待ち時間、習い事に出かける前の時間など多くの生徒達が活用しています。また、長期休業中には、部活動練習前後に部活単位で参加している様子も見受けられました。先日も、2学期中間考査前に教室に行ってみると、多くの生徒が真剣に学習に取り組んでいました。

このように担当教員がいて、多くの大学生や地域の方がサポートに入ってくれているという学習支援システムを取り入れている中学校は多くはありません。皆さんは日々、放課後の活動で忙しいと思いますが、部活動が休みの日、考査前等、時間があれば利用してみるのも学習に向き合うきっかけになるかもしれません。自分の予定と相談しながら利用してみてもはどうでしょうか。

## 放課後 地域の方々と

先日、放課後の部活動を参観しながら、校舎の外側に出てみると、教頭時代に知り合いになった地域の方々と久々に再会しました。「先生、戻ってきたんですね。」と声を掛けられ、大変うれしく思いました。数分間、国道沿いの歩道で話し込んでいましたが、「長中の生徒達が花に水やりをしたり、花壇整備したりしている姿をずっと見ていたよ。偉いね。あいさつもしてくれる生徒もいるんだよ。」とお褒めいただきました。私たちは生徒達にあいさつの大切さを常々話していますが、大人同士のあいさつや隣人同士のあいさつはできているのかという事を考えてみると、やや心許ない気持ちになります。中学生が声を出して明るい表情であいさつができたり、ボランティア活動ができたりという事は、実は、当たり前的事ではなく、素晴らしい事なのだと思います。そんな事を考えながら、私が住んでいる地域をよく観察してみると、あいさつを自らしているのは小中学生、特に中学生が圧倒的に多いようです。もし、地域から小中学生がいなくなったら、あいさつを交わす機会はあるのだろうかと不安になります。物事を日々、同じ角度から見ていると、気付かなかった事も、視点を変えたり、焦点の当て方を変えてみたりすると、良さやすばらしさに気付くのだと思います。だからこそ生徒達には、多くの方々の見守りや声掛けが必要なのだと感じます。